



観客席で一人が立ち上がると後者も立ち上がらねば見えない。かくて皆が不快状況になる。皆が立派な形になると合わせねば引け目を感じる。出費はかさみ一層稼がねばなるまい。皆が商売稼ぎに走ると今以上に仕事にのめり込まねばならない。いつか天井知らず！！

①過剰適応の不適応<人間の欲深い割りに不完全浅知恵が招く破綻！>。

(1)失敗の本質、防衛大学講師編、ダイヤモンド社」。

同書では過剰適応の不適応と言う概念が紹介されてる。日本軍は一度ある方法で成功を収めるとその方法延長をひたすら追求、だがその間に時代は推移変化し、不適応が免れずと言う論。日本に限らず、世界も繁栄過去延長を断ち切れずにいると言うのが現実。別名過ぎたるは及ばずに等しい。とかく日本人は全てに遣り過ぎで失敗。土地バブル、人事差別経営、..

(2)人間本質を見抜いていた宗教＝全知全能神と不完全で欲望誘惑に負ける人間。

無垢原初人類は生きるの意味で(宇宙生命創造主としての神の意思が創造物の健全持続にあると見て間違いなからう)神の意思に沿うものであった。だがアダムの楽園喪失寓話に典型象徴される意味は人間が「不完全な自立的知恵を持つ事での神離反」が最大主題に成ってる事だ。

”狡猾な蛇はイブに神の様な知恵を授かるという実を食べる事を誘惑する。夫アダムにも勧める。これは楽園を授かる時、神から禁じられた事だ”。これを知った神は怒り、両名を楽園から追放、以後人類は労働苦を伴う生活の時代になる。

旧約聖書冒頭創世記にあるこの話の真意を語る書を筆者は知らない。神は完全である。他方、神離反人間の欲望、浅知恵は不完全であり、それが不幸をもたらすと言う示唆だろう。

②虚栄妄想の現代世界：

(1)米国に城壁で囲まれた富裕者のみが居住する町があると言う。城壁は勿論、貧困犯罪者等を除外する為だ。その住民証言によれば、気がつけば生活が常に他人との生活豪華さを競う事のみに関心になってると言うのだ。富裕層となれば衣食住基本に困窮する事はない。ならば所得余剰は華美出費に向くだろう。その価値観は他人への見え＝虚栄になる。当然俺はこれだけ稼ぐ能力者と言う見栄にもある<情報出典元は記憶不明>。

(2)衣食住基本が満タン社会では華美競争で働きにハッパを駆ける方法が演出される。

米国支配層は平時の世界覇権争奪に於いて経済競争を主戦場とする。衣食住基礎が満タン化した主要な上中産階級国民を如何にハッパを駆けて働かせるか(動機)？！。

それが上記(1)主題であり、同時に2割りに及ぶ貧困層存在を見せる事で脅しにするのだ。この状況は正に格差化出現の現代日本のそれにピッタリ当てはまるでないか！。

(3)やたらと高層ビル建築を競う世界諸国：

資源である土地利用効率を考慮した時、ビル高層化は適切な処断と筆者も同意する。

だが現代世界を見た時、豊かになるとどの国も町を華美にビル高層化を競うのだ。発展途上諸国にすれば、欧米先進国の豊かさが報道全開現代世界に於いて見せ付けられるとそれにならへとなる心理は判る。高層ビルを競う時代は終末と言う宗教予言が.....

(4)2050年世界では一人当たりCO²排出量2トン提案したドイツ首相(10/16日)。

温暖化生存基盤破壊危機に応じるCO²排出規制に関してメルケル首相は世界市民一人排出量2トン提案。現状は米国20,ドイツ11,日本10,中国3.5。現状世界が如何に破滅的かがこの数字からも判る。欧米日本は一つのサタン世界、その誘惑は地獄奈落の道、

(5)神の反逆者三逆さまサターン。

”創造神は天使たちにアダムを拝せよと命じたとき、皆ひざまずいたがサタンのみ拒絶、神の叱責に「私のほうがあんな者より上等です。貴方は私を火で作りました、彼らは泥で作ったではありませんか」と言う。神は怒り、サタンは天国墜落命を受ける。彼は(復活の日)まで猶予を願うと許される。

おかげでとんだ横道に迷い込んでしまった。その仕返しに神の真っ直ぐな道の途中で人間どもを待ち伏せし、前後左右から襲いかかり、大部分は(神への)感謝の気持ちなどすっかり忘れてしましましょう”ーコラーン(上)p204ー(井筒訳の筆者要約、岩波)、

<以上の太字下線は筆者>。上記で泥と火で作ったとは極めて象徴的な意味に注意！、「火は当然エネルギー、だから正解は”泥”に戻る事になる！」。

③経済やり過ぎが危機を招く//どうすればどうなる?! :

①米国傀儡小泉竹中時代の「痛みに耐えて競争加速」が現日本破滅へのサタン加速点！。

サタンとは人を正道から惑わす、その手口が逆さま戦略である事を見抜けば正解が!!。

即ち「痛みに耐えて競争加速」→「喜びを持って共生加速！」となる！。

②米国ブッシュ=軍C I Aサタン政権は財政経済時限爆弾を仕掛けた後に退陣する！。

当然その余波は世界日本に及ぶ。従来経済が破綻した中で共に生きるが実践できるか否かが問われるのだから、今からその準備を早急に**想定範囲内**に入れねばならない。

③二つの基本前提= {市民全部が真理真相に目覚める} & {ある程度、昔に戻る!} :

(1)結局我々の欲深さと不完全無知が今の世界危機(格差拡大と生存資源危機)を招来した。高度技術化社会になれば、一層人は騙しに弱くなっているのが現代の最大特徴。皆が立派なスーツを身につけ、小奇麗なビル中で高度ビジネスに必死、一見格好よいが...、経営者雇用者にすれば現状を否定されれば自滅以外にない。その恐れは了解できるが、一つ回答は皆が一様に危機になれば自助努力では救済不可能、それは非自助努力=政治に基本的に委ねられる事になる！。だからこそ今から**想定範囲内**策定となる。

我々は世界の真理真相を認識し、それは**根本からの意識革命**が避けがたい。筆者の解析経験では**真理は単純素朴さ**にある。皆がそれを知らされずに踊っているのが現実！、

(2)「人は食糧、エネルギー、住居を確保すれば自由だ！」=生活根源原理。

勿論それだけでは現代生活はすまないが生命保障を第一にすればそうなるのです。筆者観測ではそれは量的には十分にある。だから残るは**適正な分配問題**になる。最終的にそれは政治問題になるはずである。生活根源原理は人類従来**の経済動機**。

④世界再出発への基礎政策の開発:

現在世界主流の「痛みに耐えて競争加速」の基本主題を逆転して見せた。となると従来価値観が逆転する事になる。**改めて世界は基礎から設計やり直しのだ**。

☞ : 本講座を読了した読者は筆者が従来議論を反復してる事を知るだろう。左様！、筆者は限られた同じ事しか述べていない。